

ケニア共和国 農業・農業機械化の概要

ケニア国農業機械化アドバイザー
村上 峻一

業務概要

- 所属： 農業畜産開発省農業機械化局*
 - ※ 主たる業務は農業機械化促進、農地開発(気候変動対策含む)
 - ※ 全国10か所に農業技術開発センターを有す。
同センターは、農機具・機械の開発・実証・普及等を実施
- 派遣期間： 2022年3月～2024年2月
- 業務内容：
 1. 政府関係機関と民間関係者の連携強化
 2. 農業機械に関係する人員の能力強化
 3. 農業機械化に関する活動の推進
 4. 農業機械に関する新たな案件/プログラムの形成
 - ※ AFICAT調査団とAFICAT活動の促進を図ることも重要な業務



ケニア国概要・補足

- 東アフリカ最大のモンバサ港を有し地域経済の中心的な役割を有す。
- 多国籍企業や本邦企業も多数進出。UNEP(国連環境計画)・UN-Habitat(国連人間居住計画)等の国連機関本部、ジエトロ(日本貿易振興機構)等の拠点も存在。
- サブ・サハラアフリカにおいて我が国ODAの最大供与国。

例.

MWEA灌漑地区:

- ✓首都ナイロビから100キロほど北にあるケニア最大のコメ生産地
- ✓1980年代より我が国が支援

ジョモケニアッタ農工大学:

- ✓ケニア・アフリカ域内の基礎科学・技術・イノベーション分野の拠点大学
- ✓1970年代より我が国が支援。両国大学間の人材交流も活発。

SHEP(市場志向型農業振興):

- ✓2006年から開始した小規模園芸農家支援。農家の所得向上に資するアプローチとして広く活用。

CARD事務局:

- ✓アフリカのコメ生産量の倍増(2019年～2030年)を目指す枠組み。事務局がケニアに存在。

ケニア国アヘロ灌漑地区改修計画準備調査:

- ✓ケニア西部に位置する灌漑地区改修計画に関する調査。

ケニア農業概要・補足

- 位置づけ: GDP-27%、雇用-60%、輸出額-65%を占める基幹産業
(2020年GDP約227億USD)

- 耕地面積: 農用地-2,763万ha、耕地-580万ha

- 主な農産物: 茶、サトウキビ、コーヒー豆、トウモロコシ、切り花等

※コメは食糧栄養安全保障戦略の優先作物

生産量-約17万t、栽培面積-約5万ha、収量-約3.3t/ha(いずれも2018年)

ムエア灌漑地区で5割以上のコメを生産

- 農家: 小規模農家が6割強、高齢化

表. ケニア国 主要農作物生産量 (2020年 世銀統計) 単位 (万トン)

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
トウモロコシ	334	319	401	358	379
茶	47	44	49	46	57
ジャガイモ	134	152	187	198	186
コムギ	21	17	34	37	40
コーヒー	5	4	4	4	4
サトウキビ	709	475	526	461	681
バナナ	129	143	141	172	186
トマト	41	51	60	57	105

ケニア農業機械化概要

- 概要： 農業機械利用-3割（人力5割、畜力2割）
- ※ 農業機械の利用状況は作物・農地面積等によって多様。
 - 例. コムギ： 耕うん、播種、収穫に関し95%が機械化
 - トウモロコシ：一部作業は人力、小規模農家の機械化適用小(2016年時点)
 - コメ(収穫後処理)：灌漑地に大小規模の精米所が集積
- トラクター新規登録台数： 2,784台/年(2017-2021年平均)
- 関係者： 例. 耕うん・収穫作業
 - Agricultural Mechanization Services(行政)、農業協同組合、
 - サービスプロバイダー(賃耕・賃刈り業者)、一部農家
- 政策： 農業機械化戦略(2021)
 - 異なる農業機械化に関する中・長期的な具体的な戦略及び関係者の役割を明確化。

[Draft-Agricultural-Mechanization-Policy-for-national-Validation-06_06_2021.pdf \(kilimo.go.ke\)](#)

表. バリューチェーンにおける農業機械化状況

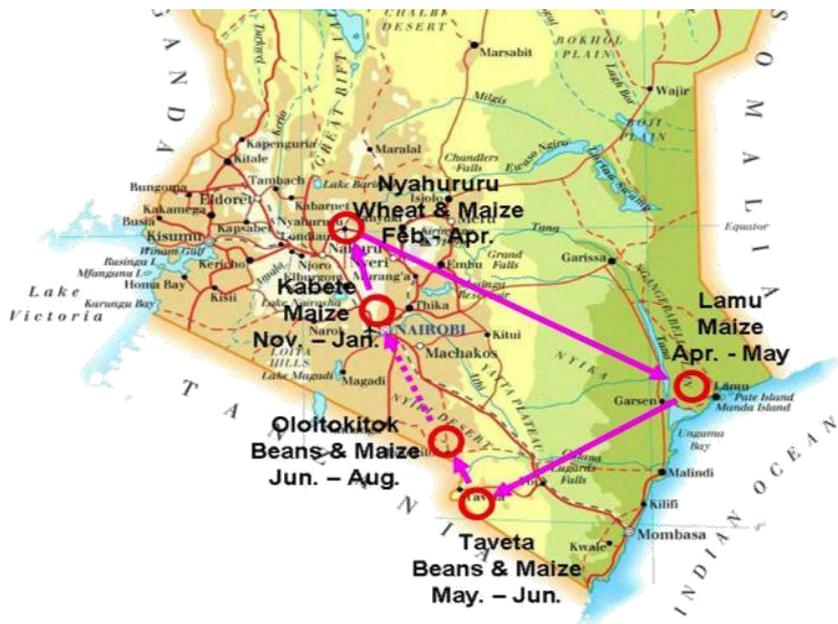
Value chain	Activity	Farm scale and % level			Average
		Small-scale	Medium scale	Large scale	
Maize	Ploughing	100.0	100.0	100.0	100.0
	Planting	32.0	77.0	58.0	56.0
	Weeding	27.0	40.0	71.4	46.0
	Harvesting	0	0	0	0
	Threshing	76.7	100.0	87.5	88.0
	Transport	100.0	100.0	100.0	100.0
	Average		39.0	53.0	53.0

出典：KARLO等、THE STATUS OF AGRICULTURAL MECHANIZATION IN KENYA, 2016

ケニア農業機械化概要－事例

・ サービスプロバイダー（賃耕・賃刈り業者）ケーススタディ

※ ケニア国農業畜産開発省、PRIVATE SECTOR LED AGRICULTURAL MECHANIZATION INITIATIVE Report, 2019



- 72馬力のトラクター
(ディスクプラウ、ディスクハロー)
- 年間10ヵ月稼働：
 - 2～4月：Laikipia県でコムギ・メイズの播種
 - 4～5月：Lamu県で綿花のための耕うん
 - 5～6月：Taita-Taveta県でメイズ・マメの栽培
 - 6～8月：Kajiado県でメイズ・マメのための耕うん
 - 11～1月：Kiambu県で各種業務
- プラウ - 2,000ksh/acre、ハロー - 1,000ksh/acre
の賃耕価格で十分な収益の確保

ケニア農業機械化概要-事例(コメ)

耕うん・
整地

移植

栽培管理

収穫

乾燥

精米



- ・ 近年利用が拡大
例. Bunyala灌漑地区
(約2,500エーカー)
- ✓ 2020年に導入。90%を超える普及
- ✓ 農家支払い経費
(収穫、運搬、袋詰め)
約12,000→約7,000ksh/acre
- ✓ 収穫量増加 (ロスの軽減)
- ✓ Service providerによるサービスの拡大

ケニア農業機械化概要-事例(コメ)

耕うん・
整地

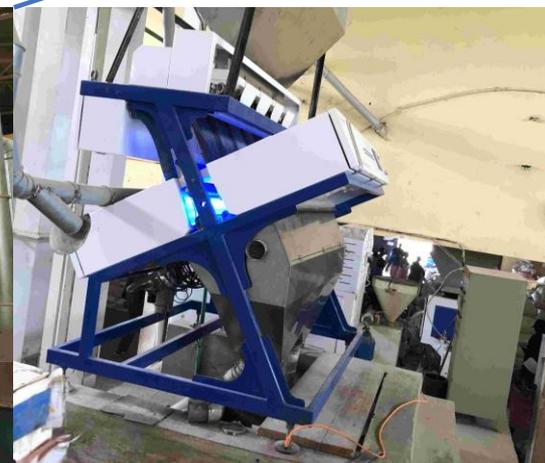
移植

栽培管理

収穫

乾燥

精米



ケニアAFICAT-ポテンシャル

- 着実な経済成長(購買力の拡大)・農業機械化ニーズの拡大
- 地域経済の中心的な役割・多様な関係機関の集積
- ODA事業のアセット
- 「AFICAT」-官民連携イニシアティブのモーメンタム

村上連絡先: msyunichi@gmail.com

